

## 色鮮やかな山ツツジ 「大人の遠足」で満喫

5月13日、「大火山ツツジの森自然公園」で、きつつきの会（川俣自治会）主催の散策ツアーが催されました。この山ツツジの自生地は、村議員OB会が、平成16年から地道な整備活動が続けてきた場所。その成果が実りつつある矢先の震災でした。

今年は例年より花つきがよく、色も鮮やかとのこと。この日の散策ツアーには、約50人が参加し、山肌を朱色に染めた満開の山ツツジを楽しみました。

自生地を登るルートは体力に合わせて選択しました。頂上に向かう道が舗装され、車でも登りやすくなりました。散策の後には、アツアツの豚汁や花見団子が振る舞われ、参加者の会話ははずみまわりました。齋藤政行会長（前田）は、「村の人でもまだこの光景を知らない人がいます。もっともっと訪れて見てほしいですね」と話していました。



## ツツジに染まる大火山

散策ツアー



散策した後のお楽しみ。現地で手作りした豚汁とデザート白玉団子、持ち寄りの昼ご飯に舌鼓。

村と村商工会青年部が道の駅で催した「いいたて こいのぼりまつり」。20匹のこいのぼりが泳ぐイベント広場で、ヨーヨーつりや型抜きなど触れ合いいっぱいの縁日コーナーを子ども達を楽しみました。

## いいたて こいのぼりまつり



多くの親子連れが訪れました。先着150人に振る舞われた「までい牛」の焼肉や、キッチンカーが並んだグルメコーナーも大人気。ゴーカートや大型遊具にも笑顔が集まりました。

## いいたて村の道の駅

ゴールデンウィーク

## GWににぎわう「までい館」

## までい工房美彩恋人 春祭り



「までい工房美彩恋人／代表・渡邊とみ子さん（前田・八和木）」が出演し、凍み餅の試食、柏餅づくりなどで来場者と交流しました。砂糖醤油をからめた凍み餅や特産カボチャの菓子、味噌じゃがなど、手づくりの味が来場者を魅了しました。

## 春のにぎわいを 呼び寄せたのは 村民の熱い思い

春先の暖かさで、桜の季節は足早に過ぎていききました。そのほとぼりが冷める間もなく、5月の村もにぎわっていました。

10年ぶりに行われた大雷神社の遷宮大祭、集う人々の親睦を深めた「飯桶四区復興祭」には、多くの人が力を合わせました。ツツジの森の「大人の遠足」も、道の駅の催しも、村を活気づけたいという皆さんの思いが形となったものです。

農業の再生の動きも一段と広がりを見せました。震災前に比べれば、まだごく一部の農地であり、ゼロからの再開は、それぞれ容易ではありません。それでも、再び農業に向き合う人の笑顔は晴れやかでした。全村避難の影響を押しつけて、一歩でも前に進むという村民のパワーが作り出したにぎわいでした。